

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立古里中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 100人

② 数学 100人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

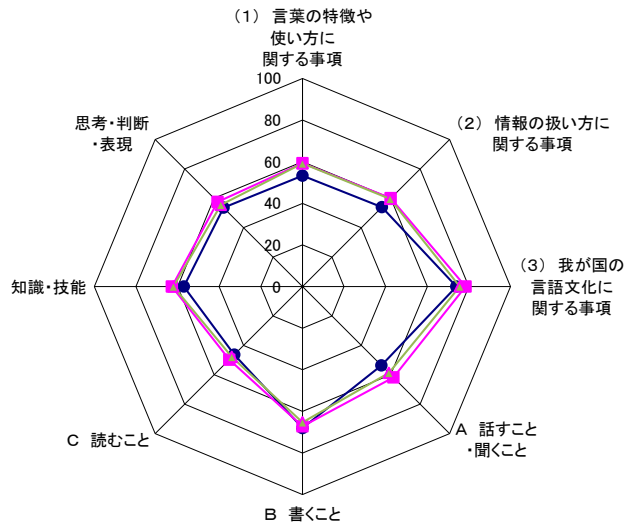
宇都宮市立古里中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】



分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	53.3	59.3	59.2
	(2) 情報の扱いに関する事項	54.0	60.0	59.6
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	74.0	78.4	75.6
	A 話すこと・聞くこと	53.7	61.8	58.8
	B 書くこと	68.0	67.2	65.3
	C 読むこと	46.3	49.7	47.9
観点	知識・技能	57.0	62.7	62.0
	思考・判断・表現	53.6	57.6	55.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

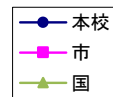
○良質な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、市よりも6.0ポイント、国より5.9ポイント低い。 ○漢字を書く問題の無解答率が国よりも4.8ポイント、県よりも5.1ポイント上回っている。 ●漢字を書く問題の正答率が国より11.8ポイント、県より11.2ポイント低い。	・漢字の問題に関しては、無解答率が高いのに対して正答率が低いことから、意欲はあるが正確性や粘り強さに課題がある。そのため毎時の授業の漢字に関する学習では、文脈に即して漢字を正しく書くよう指示する。 ・漢字のテストを小まめに行うなど、年間を通して計画的に漢字の学習を行うようにする。
(2) 情報の扱いに関する事項	平均正答率は、市よりも6.0ポイント、国より5.6ポイント低い。 ●話し合いの中の発言について説明したのとして適切なものを選択する問題の正答率が国よりも6ポイント、県よりも6.5ポイント下回っている。 ●本文中の情報と情報との関係を説明したのとして適切なものを選択する問題の正答率が国よりも5.2ポイント、県よりも5.3ポイント下回っている。	・説明的な文章の読解を行う授業では、意見と根拠もしくは具体と抽象など情報と情報との関係について着目し読解させる。 ・文章を読み比べて、論の進め方について考える学習内容を増やし読解力を身に付けさせる。 ・論理の展開などに注意して、話し合いをさせ、特に相手の考えとその根拠を聞き取ることに粘り強く取り組む学習内容を増やす。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	●平均正答率は、市よりも4.4ポイント、国よりも1.6ポイント低い。	・書写の学習で、行書のよさや特徴を生徒に伝えるときに、書に関する我が国の言語文化に対し、興味関心を高めるよう学習内容を工夫する。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、市より8.1ポイント、国より5.1ポイント低い。 ●話し合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く問題の正答率が42.0ポイントと県より5.4ポイント低い。	・論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる学習の時間を充実させる。 ・相手の考えとその根拠を聞き取ることに粘り強く取り組み、学習課題に沿って、聞き取った考えと自分の考えとを比べる授業展開の工夫を行う。
B 書くこと	平均正答率は、市よりも0.8ポイント、国よりも2.7ポイント高い。 ○物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したのとして適切なものを選択する問題の正答率が国より3.6ポイント、県より3.2ポイント、上回っている。 ●表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する問題の正答率が、県よりも0.8ポイント下回っている。	・物語的な文章の学習において、表現の効果について考えさせる学習活動を行う。また、作者の表現を参考にしながら、自分の文章を書く活動を適宜行う。 ・伝えたいことが分かりやすく伝えるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫する学習活動を増やす。 ・表現の効果を考えて描写する学習活動を増やし、書くことについて難なく取り組めるように習慣化を図る。
C 読むこと	平均正答率は、市よりも4.0ポイント、国よりも1.8ポイント低い。 ○本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する問題の正答率が国よりも3.4ポイント県よりも3.0ポイント上回っている。 ●本文中に示されている二つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものをそれぞれ選択する問題の正答率が、国よりも5.5ポイント、県よりも6.1ポイント下回っている。	・具体と抽象の関係に着目して説明的な文章を読解させる学習活動を適宜行うことで読解力を身に付けさせる。 ・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする文章読解の授業内容を工夫する。 ・文章読解時に、観点を明確にして文章を比較し、文章の構成や論理の展開について考えるような学習に取り組ませる。

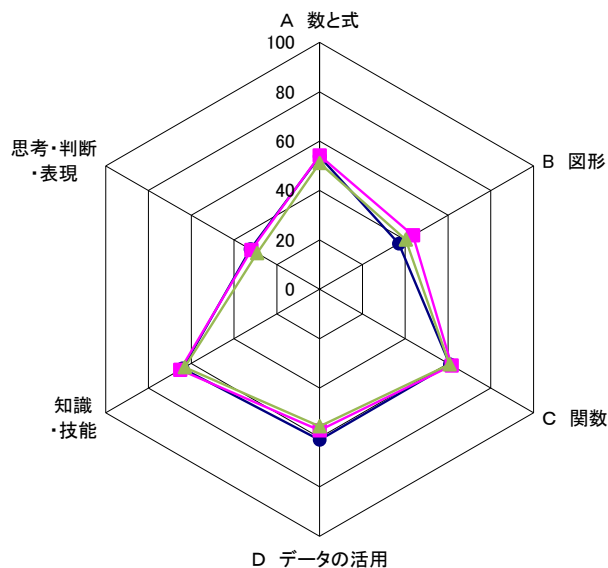
宇都宮市立古里中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】



分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	53.8	54.2	51.1
	B 図形	37.0	43.6	40.3
	C 関数	60.8	61.7	60.7
	D データの活用	61.0	57.1	55.5
観点	知識・技能	64.1	65.2	63.1
	思考・判断・表現	32.4	31.9	29.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	<p>平均正答率は市よりも0.4ポイント低く、国より2.7ポイント高い。</p> <p>○文字を使って数を表す問題については全国や市の平均を上回っている。</p> <p>○目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する問題では、国よりも正答率が4.2ポイント上回っている。</p> <p>●総合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する問題では、2.4ポイント市の平均を下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計算練習の機会を捉え実施することで基礎的な計算力の定着を図る。 ・他領域でも、関連のある計算方法を随時確認させることで、より一層の定着を図る。 ・グループ学習や任意小集団の形態を利用し、考える時間を多く取り、友達同士で話し合いをさせる中で、筋道を立てて説明したり、きちんと最後まで聞いたりする場面を設ける。また、答えをどのような方法で求めたかを考えさせ、説明できるようにすることを授業で心掛けていく。
B 図形	<p>平均正答率は、市よりも6.8ポイント低く、国より3.31ポイント低い。</p> <p>○事象を角の大きさに着目して、解決の過程や結果を振り返り、新たな制度を見いだす問題では、市の平均を4.4ポイント下回ったが、国の正答率は同程度であった。無回答率は市・国を下回り、粘り強く取り組んだことがうかがえる。</p> <p>●回転移動について理解しているかを見る問題や三角形の合同条件を使って筋道を立てて説明する問題では、正答率は市よりも7ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の領域を学習するときに、過去に学んだことの振り返りを行い、それをもとにして新しい学習をすることを確認させる。 ・授業では、答えの求め方を筋道立てながら説明させることを大切にを進める。 ・学んだことの定着を図るため、練習問題を解く時間を設ける。
C 関数	<p>平均正答率は、市と国よりも、0.9ポイント低い。</p> <p>○一次関数について式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかを見る問題では、正答率は、市より2.8ポイント高く国より3.75ポイント上回った。</p> <p>●2つのグラフにおけるy軸の交点について事象に即して解釈することができるかどうかを見る問題では、市より4.5ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・比例・反比例、1次関数のについて忘れていた生徒が多くみられるので、性質等を確認させてから関数の領域を学習する。 ・関数の学習で、性質の調べ方を定着させ、主体的に考えられるようにする ・授業の類似問題等を解かせることで、授業内容の理解の定着を図る。 ・身の回りにある事象で、関数関連のものは多数あるので、身の回りにある事象を課題として扱い、生徒達に興味・関心を持たせて取り組ませる。
D データの活用	<p>平均正答率は、市より3.95ポイント、国より5.5ポイント高い。</p> <p>○複数の集団のデータの分布から四分位範囲を比較することができるかどうかを見る問題では、正答率は市より12.1ポイント上回った。</p> <p>●与えられたデータから最頻値を求める問題では、正答率は、市より8.5ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・データの活用の1年生からのつながりを意識させるために今までの学習の振り返りをさせてから授業を行う。 ・用語の意味を理解させるなど、既習事項の復習をする。 ・データにどのような傾向があるのかやほかのデータとの比較でどのようなことが読み取れるのかという活動を多く取り入れ、自分の意見と他の意見を比較させることで、自分の考えをまとめて、表現できるようにさせる。

宇都宮市立古里中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には良いところがある」の肯定的回答は95.1ポイントと高く、自己肯定感の高さが伺える。また、「学校に行くのは楽しい」の肯定的回答も90.2ポイントと県や全国と比較しても極めて高い。この理由として考えられる質問項目が「先生はあなたのように認めてくれる」の肯定的回答が94.1ポイントと極めて高いことや「人が困っているときは、進んで助ける」の肯定的回答が98ポイントと、ほとんどの生徒が肯定していることによるものと考えられる。対教師、対友人との人間関係が良好で、学校生活が充実していると分析できる。今後も学校行事等を通じて、思いやりをもって協力することや周囲への気配りの大切さなど、実体験をもとに指導していく。

○「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表する」の肯定的回答は82.4ポイントと県・全国と比較すると極めて高い。本校の学習指導の重点目標のひとつとして「言語活動の充実(自分の考えを書いたり伝えたりする活動の重視)」を掲げており、全教科・領域で取り組んできた成果であると考えられる。特に総合的な学習では、目標設定からまとめ・発表まで、様々な形態で実施しており、生徒個々のスキルも向上してきたと感じられる。

●家庭での学習時間に関する項目では、平日の学習時間が2時間以上・3時間以上と回答した生徒は計21.6ポイントと県・全国と比較して低い。また、休日の学習時間においても3時間以上・4時間以上と回答した生徒は計11.7ポイントと低く、学習時間の不足が伺える。これは、昨年度実施の「とちぎっ子学習状況調査」のアンケートでも同様な結果を確認しており、改善のための指導を実施してきたところである。ただ、昨年度のアンケート結果よりも平日に関しては6.4ポイント、休日に関しては2.2ポイント上回っており、改善の兆しが見えているため、今後も指導を継続していく。

●「数学の勉強は好きか」の肯定的回答は51.9ポイントで半数近くの生徒が数学に苦手意識を抱いていることが見て取れる。「数学の授業の内容はよく分かる」の肯定的回答も69.6ポイントで、県・全国と比較しても低いことから、理解不足から苦手意識が高くなり、さらに理解の遅れにつながる、負のスパイラルに陥っていると思われる。3年生になって学習内容も難しくなってきたことから、学び直しや計算問題などの基本的学習の反復学習を指導し、「できた・わかった」の実体験を増やしていくことが肝要と思われる。今後も放課後を利用した学習相談や、ステップアップコーナー(自主的に学習したい生徒のために、自由に持っていきける学習プリントを用意・設置)の充実を図っていく。

宇都宮市立古里中学校 (第3学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習を中心とした自主学習の充実(マイスタデイ) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善(指導と評価の一体化) 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な学びを促す個に応じた学習指導 毎時の「本時のねらい」の明確化と振り返りの場面の設定 生徒の学習改善に生かす評価の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の取り組み状況で主体性に関する質問「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか。」の肯定的回答が84.3%で良い調査結果となっている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> 主体的に粘り強さを持って学習に取り組む態度を育む 	<ul style="list-style-type: none"> 学びあいによるコミュニケーション能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 学習に対する「主体性」「粘り強さ」を、学びあいの中から実感させ習得できるよう授業展開を工夫する。 教員同士が授業をお互いに参観し、授業研究を行い、授業改善に努める。